

武雄市図書館・歴史資料館

の「ツタヤ化」のいま

「議会と自治体」誌

二〇一五年十二月号から

党佐賀・武雄市議 江原一雄

選書問題で注目される

武雄市図書館

『週刊朝日』（九月十一日号）は、市民による情報公開請求によってあきらかになった、武雄市図書館リニューアル時の蔵書一万冊の購入をめぐる不透明さを、「3年前の『WINDOWS98本』、二年前の『公認会計士本』、武雄市TSUTAYA図書館関連会社から疑惑の選書」と紹介しました。また、『女性セブン』（九月十日号）が、「ベストセラー本はなくなり、なぜか古くい本ばかり買っていた……佐賀・武雄市民は怒っています！ 『リアル図書館戦争』という三ページの記事を掲載しました。ネット上でも、「週刊プレニュー

S」などに取り上げられ、『アエラ』

（八月二十四日号）で内田樹氏が「D

VDの大量処分、選書リスト……

武雄市立図書館への疑問」とのべ

ている記事など、武雄市図書館の

選書問題が注目されました。

二〇一三年四月にカルチャ・コ

ンビニエンス・クラブ（以下、CCC

C）が日本で初めて展開した武雄

市図書館問題が、再び注目されて

います。私も本誌二〇一三年三月

号に続き、開館後二年半を経た武

雄市図書館について報告したいと

思います。

一億八千万円の予算で図書館の

CCC委託を強行

「武雄市図書館・歴史資料館」（以

下、武雄市図書館）は、二〇〇〇

年に蔵書十九万冊を備えて開館し

ました。開館後、年間平均入館者

三十万人、貸出冊数三十五万冊の

図書館となり、市民の文化歴史の

中心シンボルとして運営され、親

しまれてきました。

ところが二〇一二年五月四日、

当時の樋渡啓祐市長（二〇一五年

一月十一日、佐賀県知事選挙に自

公推薦で立候補。落選）と蔦屋書

店CCCの増田社長による東京本

社での記者発表がおこなわれまし

た。市民には秘密ですすめてきた、

指定管理者制度で武雄図書館をC

CCに管理委託するという発表で

した。市議会で市長は、建設して

十二年の武雄図書館を「がたがき

ている」、「古くなってゴキブリが

いる、おじやま虫がいる」と罵っ

たり、「既得権益とたたかう」など

の発言を重ねながら、市議会賛成

派の数の力でCCCへの委託を強

行にすすめました。また、歴史資

料館としての役割を持つ「蘭学館」

を全館レンタル店にするための条

例改正では、市長は「もともとこ

の条例はボロ条例」というなど、

常軌をこえた言動や「議場でのヤ

ジ」など許されない行動をとって

いました。

さきのように週刊誌などでも問

題とされた選書をふくむ改修費の

予算は、二〇一二年九月定例市議

会に提案されました。市予算四億

五千万円のうち、CCCへの委託料

は「新図書館業務委託料一億三千

九百六十五万円、新図書館サービ

ス環境整備業務委託料四千八万

二千七百五十二円」の合計約一億

八千万円でした。党市議団は当時

から、CCCとの業務委託費につい

て詳細な説明を求めていましたが、

当局はあきらかにしませんでした。

この間市内外の方がたが、市長

に情報公開条例にもとづいて図書

館改修に係る開示請求を要求しま

したが、「一部不開示」としてあき

らかにしませんでした。

初期蔵書の入れ替え、選書を

めぐる不正常な事態に批判

私は、今年の九月議会の一般質

問で、「新図書館サービス環境整備

事業」のなかの一万冊蔵書購入の

件について、詳細な答弁を求めましたが、「係争中（注）だ」として答えませんでした。

ところが、九月十日付でCCCは増田社長名で、「一部メディア等で指摘されている蔵書内容について」として、「二〇一三年四月のリニューアル開館前に武雄市から業務委託を受け、初期蔵書の強化として追加納入した蔵書」、「追加納入蔵書数一万百三十二冊（当時、CCCが出資するネットオフ等より商品リストを事前に確認の上で購入。※現在は資本関係はございません）、納入金額七百六十万円（装備費、物流費含む）で追加納入した蔵書について、より精度の高い選書を行うべき点があった事を反省しております」とHPで発表していました。

一般質問の日程が終わって、すぐ教育長に「昨日CCCの増田社長は、中古本を購入したことを暴露しているではないか、なんで一般質問では詳細に説明しないので

すか」と、問い質しました。

すると、その夕方に教育長名で、「教育委員会の判断で、中古本（七百五十六万円）を購入し、当初予算（二千五十六万円）を抑え安全対策を実施しました。市議会、関係者に十分な説明をしなかったことをお詫びいたします」と議員にFAXし、翌十二日付で市のHPに発表しました。

さらに、樋渡前市長が自身のHPに、「武雄市教育委員会が本日発表したように費用捻出するため中古本を使用しコストダウンを図ったのが経緯です。反省の上お詫び申し上げます」と掲載しました。

「コストダウン」を名目に中古本を購入したとしてこの問題を終わらせようとする、なんという無責任な事態ではないかと思えます。

市当局は、市議会、市民にはまったく説明責任を果たさずに、通り過ぎようとしていたのです。

市議会最終日の十八日、私は、この問題の全容説明をするべきと

考えて、自民党の谷口攝久議員と共同で、「武雄市図書館・歴史資料館の改修に伴う業務委託等に関する調査特別委員会の設置を求める決議案」（百条委員会）を提案しました。採決の結果、賛成六、反対十七で否決されました。しかし、市民の間では、「こんなことは許されない」という声が広がりました。

これを受けて、「明るい武雄市をつくる市民の会」（会長、大河内智氏）を代表請求人として、十月二十日、市監査委員会に「武雄市への初期蔵書入れ替えに関する監査請求」を市民二十人で提出しました。これはあきらかに予算の流用、不当な支出であり、契約不履行と言えるものです。前市長・教育長の責任は重大であります。

注 今年六月一日、市民十四人が、武雄市図書館の業務委託は「さまざまな手続きで結ばれた不当な契約」として市の監査委員会に住民監査請求を起こしました。監査委員会は六月十五日「却下」し、こ

れを不服として市民は、佐賀地方裁判所に住民訴訟を起こしました（「武雄市図書館・歴史資料館の改修に係る損害賠償請求事件」）。

教委が「Tカード」作成推進登録者の七割は市外在住

武雄市図書館の「ツタヤ化」にあたって、「Tカード」導入、ポイント付与、図書利用履歴など個人情報やCCCに提供される問題への危惧と批判が、関係各方面から指摘されていきました。

武雄市では「子どもの読書活動推進計画」（〇七年三月）などで、小学校新一年生や転入生などを対象に学校をつうじて希望をとり、図書利用カード作成が推進されてきました。今年はじめに教育委員

会は、市内の小学生・保護者に、「図書利用カード」か「図書利用カード（ポイントつき）」を選択するよう通知を発行しました。

今回の通知は、小学生の図書館

利用のために、CCCの「Tカード」作成を教育委員会が推進することにはかなりません。「Tカード」は、私企業の顧客動向の管理、市場拡大のために作成されているもので

あり、これはCCCが図書館を教育の場でなく商業施設の場ととらえていることを示しています。

私は、小学生にCCCの「Tカード」をつくらせることは問題だと三月議会で質しましたが、強行されています。

この間、市民の図書利用カードの作成状況は、市内登録者は約三割、市外・県外者が約七割です（表1）。リニューアル前の利用者登録は市内七割、市外三割でしたので、逆転しています。

市民のなかからは、「商業施設となった図書館に親しみを持てなくなったと感じている」との声をよく聞きます。武雄市図書館では「来館者が一年目九十二万人、二年目が八十万人になった」としていますが、武雄神社などに観光にきた

方がたが大型バスで図書館にも回って見物されている光景を、よく見かけるのです。まさにこれは、図書館ではなく、商業施設といえるものです。

入館者がリニューアル前と比べて三倍になった。たくさん人が来るからいいではないかと、賛成議員はいいですが、市内に限らず、市外・県外の方がたの商談や待ち合わせに館内に併設されたスターバックスの席が活用されているのも実態です。樋渡啓祐前市長は、こうしたことから二十億円の

経済効果があったと推計していますが、何らの根拠もありません。そして、当初目標としていた入館者四十万人、貸し出し五十六万冊

について、入館者は増えていますが、図書貸し出し数は一年目五四万冊、二年目四八万冊と下がっていて目標に達していません。さらに、図書館費は表2のように、リニューアル前は平均一億二千万円で運営していました。一二

年は五億八千六百七十万円（うち

改修費四億五千万円）を投入し、リニューアル後は平均一億六千万円（CCCの委託料一億一千万円、五千万円は図書費）かかっています。

CCCはHPに、「武雄市図書館・

CCCの初年度の収支報告書によれば、三千六十五万円の赤字、二年目は千七百一十二万円の赤字と

しています。CCCは、図書館施設の年間賃借料約六百万円を市に納入し、建物内でCD、DVDレンタル店、スタバを運営しています。この売上金は収支報告にはふくまれておらず、CCCが図書館事業の

全国展開を企図していることから、企業としては採算がとれているのではないかと考えられます。しかし、幕末佐賀・武雄藩の果たした歴史を保存した「蘭学館」をつぶして、全館がCCCのレンタルビデオ店と化したことは、今日のSNSの普及の広がりのもとで、いつまでレンタルビデオが利用されていくのか、先き行きが問

われるでしょう。利用者アンケートは実態をしめしているのか

歴史資料館の利用状況について」を掲載しています。今年九月に実施したアンケートは、題名が「利用者アンケート」で、「市民」ではありません。来館者五百三十一人の回答のうち「満足」が八五%だったことから、「多数の利用者に満足いただいている」としています。

しかし、市民のなかには、「アンケートのとおり方はおかしか」と激怒する声もあります。「アンケート取るなら利用者だけでなく市民全体に対してとるべきだ」との声も

あります。それは、市内の図書利用カードの登録にあらわれていると考えられます。リニューアル前の市民の登録者は二万四千人、このなかには転出や亡くなっている方がおられるにしても、現在は一

万四千人とあきらかに減少しています。市民のなかでは「ツタヤコンビニ図書館には、いきたくない」という怒りが収まっていません。

図書館法は図書館の目的について、「教育と文化の発展に寄与する」

(第一条)とし、「図書、記録その他必要な資料を収集し、整理し、

保存して、一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクレーション等に資することを目的とする施設」(第二条)と定義しています。

今回の武雄市図書館での「選書」問題は、図書館の目的に合致しているのが問われました。また、改修オープン時に廃棄・除籍された八千七百六十点もの書物のなか

に、佐賀県が公民館活動の一環として一九四八年から出版し、戦後復興時の佐賀づくりをリードしてきた郷土資料の『藩』、『新郷土』という雑誌がふくまれており、貴重な資料がいと簡単に破棄された、と井上一夫さん(「武雄市図書館・歴史資料館を学習する市民の

会」代表世話人)から指摘されています。これらのことから、地元をよく知らない「CCC」だから、こうした破棄や購入の選書がおこなわれた、と言えるのではないのでしょうか。

退任後、委託先企業から資金提供や理事就任

〇六年の合併選挙で市長に当選した樋渡市政の八年八カ月間では、

四回の市長選挙がおこなわれました。〇八年、市民病院民間移譲をめ

ぐつての市長リコールのもとの辞職による出直し選挙、二〇一〇年、二〇一四年(任期改選選挙)、一五年、樋渡市長の知事選立候補、辞職による突然の選挙、です。二〇一三年参院選では安倍総理が武雄市に来て、街頭演説で「リニューアルした武雄図書館はアベノミクスです」と称賛しました。樋渡氏が在任中に、「民でできるものは民で」としてとりくんだの

は、市民病院の民間移譲(一〇年)、図書館のCCCへの委託(一二年)、そして、「武雄の教育改革」(一四年)と、称するものでした。

二〇一四年四月、「教育の転換が求められており、官と民の垣根を

取り払い、互いの強みを生かした学校づくりをしていく」(佐賀新聞「四月十七日付)として、東京・

杉並区の和田中学校の民間初代校長に赴任した藤原和博氏と二代目

校長の代田昭久氏を武雄市に招き、教育特別顧問や教育監兼小学校の校長に就任させています。さらに、

埼玉県に本部がある民間学習塾の「花まる学習会」との共同で、「官民一体型学校」を導入しています。昨年の年越し選挙となった佐賀県知事選挙で、県民は「樋渡知事候補」を選ばず、落選させました。本人は「まさか落ちるとは思いもしなかった」と白状しています(七月十一日の市内、北方公民館での講演会)。「改革派」、「やり手」と言われていますが、佐賀県民はす

べて見ているのです。県内の首長も、「樋渡知事候補の独断専行」の手法を学んでいません。樋渡前市長の手法は、いま、安倍政権のもとで、憲法違反の「戦争法案」が

強行可決されたことと重なります。主権者、市民を無視する強権政治

そのものです。知事選出馬による市長退任後の

樋渡氏について市民を驚かせているのが、六月一日に、市民病院を

民間移譲した「新武雄病院」の理事に就任し、七月二十八日には、CCCグループから資金提供の四千万円を受けて「ふるさとスマホ株式会社」の社長に就任したことで

す。在任中は「既得権益を許さん」と言っていた人ですが、事後収賄ではないか、と言われています。武雄市長選挙で、樋渡前市長の後継指名の市長が誕生しましたが、対立候補者とはわずか六百九十六票差でした。

日本の未来の方向を示す
図書館問題への対応

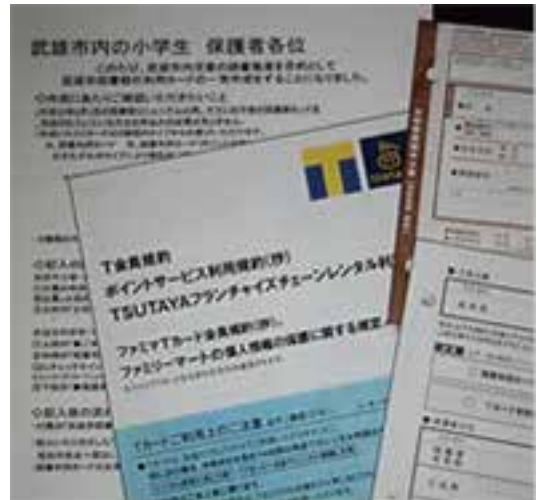
(えはら・かずお)

「戦後七十年の節目の時期に、図書館問題がクローズアップされることは、その対応の在り方が日本の未来の方向を指し示すのではないかと思うことがある。次代の孫たちのために静かで美しい図書館・歴史資料館を取り戻し、持続可能な平和な日本の実現の捨て石になりたいと考えている」(『出版ニュース』二〇一五年九月中旬号)と論じられている「武雄市図書館・歴史資料館を学習する市民の会」の井上一夫代表世話人の思いは、市民の共通の思いであると感じています。

引き続き、「明るい武雄市をつくる市民の会」に結集しているみなさんたちとともに連携して、武雄市図書館・歴史資料館を営利優先の「CCCツタヤ書店化」から再転換するために、力を尽くすものです。



「選書問題」を掲載する週刊誌



小学生への図書館「利用カード」

表1 図書館の利用登録者(単位・人)

	市内		市外・県外		登録者数
	人数	割合	人数	割合	
委託前	24985	67%	12125	33%	37110
委託後	14217	32%	29999	68%	44218

表2 図書館費(年間)

平成18年	1億2,464万円
平成19年	1億1,607万円
平成20年	1億1,432万円
平成21年	1億1,199万円
平成22年	1億2,386万円
平成23年	1億3,960万円
平成24年	5億8,670万円
平成25年	1億6,685万円
平成26年	1億4,309万円
平成27年	1億6,513万円